



和泉クラーク・ホール(3号館)



和泉クラーク・ホール(屋内)



砂場



学生食堂(1階)

3号館

2019年度 聖句

「わたしがあなたがたを選んだ。
あなたがたが出かけて行って、
実を結び、その実が残るようにと」
(ヨハネによる福音書第15章16節)

IZUMI
topics

CONTENTS

保育者養成校としてのミッションと課題	2
シリーズ研究室紹介	3
TOPICS (いずみ祭 他)	4
卒業生の活躍、父母会長の声	5

特集

保育者養成校としてのミッションと課題

和泉短期大学の歴史と使命

学長 佐藤 守男



助を開始したことから、和泉の歴史は始まります。

戦争が起きますと、男性は兵士に取られ、女性や子ども、お年寄り（いわゆる弱者と呼ばれる方々）が、一番の犠牲者になると言われています。第二次世界大戦が終わった日本にも、身寄りのない、子ども達（戦災孤児）がたくさん生まれていました。

和泉短期大学は、このような時代背景の中から生まれます。アメリカの財団 CCF [Christian Children's Fund] の創立者でありました『カルビット・クラーク博士』が、敗戦直後の日本の戦災孤児を救済するために、香港 CCF 総主事の『ミルス博士』を日本に派遣し、ララ物資配給責任者でありました『バット博士』達とともに日本全国の児童福祉施設の援

助を開始したことから、和泉の歴史は始まります。

CCF の日本国内での活動をしてきた基督教児童福祉会は、1952年に社会福祉法人として認可されます。そのころから、児童福祉施設の子ども達への衣食住などの経済的援助だけではなく、「いかに子ども達を育てるべきか」「いかに教育するべきか」このことが重要な課題となってきました。そして、施設で働いている保育士の資質の向上を図ることが重要だということと、現任訓練の講習会を開いてほしいとの要望が基督教児童福祉会に集まってきたのです。

そこで基督教児童福祉会は故バット博士を記念して1956年に東京都世田谷区玉川中町2の21に約2000坪の土地を得て、「バット博士記念センター」を開設します。そのセンターの中には、実験的モデル施設である「バット博士記念ホーム」と施設で働く保育士の現任訓練講習会を開くための「バット博士記念養成所」が設けられました。因みにこの「バット博士記念ホーム」の建設場所の有力な候補地として挙がっていたのが、青山学院や国際基督教大学などの敷地内なのですが、最終的には、東京都世田谷に決定しています。また、「バット博士記念養成所」は八角形の2階建てのモダンな講堂が建てられ、そこで講習会が開かれました。現在、その土地は日本体育大学の所有となっています。

「バット博士記念養成所」で開かれた施設保育士の講習会は、最初はわずか17名から始まりました。そして、その後組織化されて「玉川保母専門学院」となり、「和泉短期大学児童福祉学科」として発展し、今年で63年、世田谷から相模原に移転して43年目を迎えています。

ところで、本学の初代理事長の眞鍋頼一（よりいち）先生は、頌栄教会の最初の牧師であり、青山学院理事長をされ、社会福祉法人基督教児童福祉会の初代理事長に就任された方です。そして、本学が学校法人に認可されると初代理事長になりました。現在本学にありますが眞鍋記念奨学金はこの眞鍋先生からの寄付金で設立したものです。そして眞鍋先生は、「バット博士記念ホーム」の園長および「バット博士記念養成所」の所長として、長野県の小諸教会の牧師であり、社会福祉にも精通

している中島武夫先生を起用しました。中島先生はバット博士記念養成所所長、玉川保母専門学院院長、和泉短期大学児童福祉科初代学長、本法人理事長を務められています。

ところで、本学が相模原に移転して10年が経った頃、高齢者問題が社会の緊急課題となっていました。というのは、我が国の総人口に占める65歳以上の高齢者の比率は、世界に類を見ない勢いで増加し、35年後にはピークをむかえて、実に国民4人に1人は65歳以上の高齢者という「超高齢社会」になると予想されていたからです。そして、そのころから数えて35年後とは、丁度この令和の時代のことになります。

中島先生は、晩年この日本の高齢化社会問題に関心を持たれ、彼の死の前年の夏、母校のカナダのトロント大学を訪れ、高齢化社会問題を調査してきています。

それを受け、本法人は日本の現状を觀て、中島先生の先見性に共鳴し、法人の新たな使命として高齢化社会問題を真剣に考えるようになりました。そして、高齢者の福祉に貢献しようとする人材育成の機関として、全国に先駆けて、「和泉老人福祉専門学校」を1985年に開校し

ます。1987年に「社会福祉士および介護福祉士法」が成立する2年前のことですから、本学にとって志の高い、大変名誉なことだったと思います。初代校長は当時の理事長伊藤忠利先生が就任し、新入生89名（男26名、女63名）を迎えました。

現在ではこの専門学校は、専攻科介護福祉専攻として短期大学に改組転換し、高齢者福祉のパイオニアとして、建学の精神を受け継いでいます。

和泉短期大学で働く教職員は、保育や介護にとって厳しい、この日本の現代社会にあつて、クラーク博士、ミルス博士、バット博士、眞鍋頼一先生、中島武夫先生、伊藤忠利先生、その他多くの先輩たちの思いに心を重ねながら、その働きに感謝しつつも、現在の和泉短期大学にとって、何が神から与えられている使命であるのか、今一度、冷静に考えてみる必要があるかと思っています。



シリーズ研究室紹介②

松浦 浩樹 教務部長

私の専門領域は、保育学であり、広くは教育人間学とも示します。学部時代から大学院まで現象学という難解な学問を基盤において、研究を積んできています。現象学は、目の前に起こっている出来事を徹底して解釈する哲学の一分野です。この学問のスローガンでもある「事象そのものへ」という探究姿勢は、データやトレンドといった量的分析に捉われず、目の前の子どもを先入観を排除して理解する・保育を理解する、そして建設的な解釈を紡ぎ出すことを教えてくれます。人を解釈する時には、必ず先入観やデータの影響を受けますが、この学問の凄みは、その解釈者自身が捉われている先入観やデータを自覚させ、自らの存在的課題を明確にすることから、より高次な人間理解の次元へと導くのです。これは苦悩に満ちた手法でもあります。先人たちがその苦労を重ねてきた結果、現在の子どもや遊びを大切にする保育が維持されてきているのです。フッサール、メルロ・ポンティ等を介し、日本では津守真・鯨岡峻らを筆頭に、この学問は多くの研究者に受け継がれ、実践的かつ具体的で深い保育学・教育学・医学・看護学の研究発展に寄与しています。私は足元にも及びませんが、この難解かつ苦悩に満ちた研究手法を背負いつつ、何よりも保育現場の現実に向き合い貢献する研究を目指しています。



2019年度表彰者

眞鍋記念奨学金(前期)

児童福祉学科1年 陽田千賀子

(都立町田総合高等学校出身)



心優しい先生方、友人たちのおかげで日々楽しく和泉で学ぶことができています。これから実習に向けて、また現場にできることを念頭に努力していきたいです。

児童福祉学科1年 小俣美由紀

(県立相模原総合高等学校出身)



和泉での学びは、私の今までの考え方や価値観が変わるきっかけになりました。後期も様々な知識や技術を身につけ、自分の学びを深めていきたいです。

専攻科 戸栗 知春

(県立厚木西高等学校出身)



4月から授業や実習を通して、介護についての深い学びが出来ます。これから最後の実習や国家試験があるの、積極的に勉学に励んでいきたいです。

児童福祉学科2年 中尾由希子

(日本大学第三高等学校出身)



家庭と勉学の両立に度々悩むこともありましたが、このような賞を頂けたことに感謝しております。熱心な先生方や若い同級生に支えられ、たくさんの素晴らしい出会いに恵まれ、充実した学生生活を送っております。ありがとうございます。

児童福祉学科2年 小野家 溪

(都立町田総合高等学校出身)



授業や実習を通して、毎日の新しい発見の中、少しずつ自分を高めていけたと感じています。保育の学びの集大成を迎えます。今後も万里一空の思いで取り組んで行きたいと思っています。

和泉短期大学顕彰制度

学長賞(前期)

児童福祉学科 恩田 奈巳

(サークル活動)



限られた学生生活の中で、自分の生きる力を最大限まで伸ば

していけるように、感謝の気持ちを忘れず、今後も挑戦し続けたいと思います。

児童福祉学科1年 岡本 夏実

(県立相模原青陵高等学校出身)



中学校、高校とバドミントンとバドミントンの積み重ねが準優勝という結果に繋がりました。努力をすればその自分分に返ってきます。勉学にも力を入れ、今後の学生生活を実りあるものになりたいです。

児童福祉学科1年 小牧 由依

(県立相模原総合高等学校出身)



今回はこのよう賞を頂くことができて、嬉しく思っています。今後は今までよりさらに勉強とバドミントンの両立に力を入れ、和泉での学びを深めていきたいと思っています。



第53回 いずみ祭を開催しました「～ just smile ～いずみ祭、笑顔の花を咲かせな祭」^{さい}10月25日(金)～27日(日)

- ・**前夜祭** 10月25日(金)、ダンス・音楽の輪サークルと外部ゲスト、地元出身の「ウタイスト」さんのライブを実施しました。素晴らしい演奏と歌声に歓声があがりました。
- ・**サウンドコンテスト** 10月26日(土) 1年生、2年生のグループごとにサウンドコンテストを行いました。課題曲 1年生「和泉短期大学カレッジソング」2年生「パブリカ」と自由曲を歌いました。授業や実習、就活で忙しい中、衣装や振り付けを考えて練習を重ねてきた各グループ。学生たちの音楽に合わせて踊り出すお子さんもいました。来場者アンケートではサウンドコンテストが楽しかったとの声を沢山いただきました。
- ・**模擬店・保育出展** 日頃の学びを活かした保育出店は子どもたちに大人気、また専攻科や日々の和泉の様子などを紹介するブースは、大人に好評でした。今年は学生食堂も初出店し飲食店が充実していました。学生たちは来場者の皆さんとの交流もでき、笑顔の2日間となりました。
- ・**青葉2丁目自治会参加** 本学が所在する相模原市中央区青葉2丁目自治会の皆様に模擬店を出店いただきました。今年も名物の焼き鳥、フライドポテト、豚汁が大好評でした。
- ・**障がい者施設参加** 今年は近隣の障がい者福祉施設「さがみ愛育会」「進和学園」様も手作り製品やパン、製菓で初出店いただきました。
- ・**和泉短期大学父母会** 父母会は「お休み処」を出店し、無料のお菓子と飲み物が大好評でした。
- ・**和泉短期大学後援会** 後援会はおいしい焼きそばとあらびきソーセージを出店しました。中庭まで長い列ができていました。
- ・**同窓会** 同窓生・恩師の先生方との交流スペース「いずみのひろっぱ」には、多くの卒業生の皆さんにお越しいただきました。卒業生のお子さんもたくさん集まりキッズコーナーに夢中になっていました。同級生と久しぶりに会え、一瞬で学生時代に戻ることができた空間となりました。
- ・**保証人会** 10月26日(土)、1年生の保証人を対象に第7回「保証人会」を開催しました。「実習サポート講座 ― 初めての实習へ、日常生活でできる10のこと」と題し、山本実習サポートセンター長より説明を行った後に、保証人とグループアドバイザーとの個別面談を実施致しました。
- ・**いずみ祭実行委員長コメント** いずみ祭期間中、学内の様々な場所から笑顔を見ることができました。ご協力ありがとうございました。



TOPICS

第21回おもちゃインストラクター養成講座

2019年8月22日(木)、23日(金)の2日間、第21回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生45名が受講しました。

日本グッド・トイ委員会のおもちゃコンサルタントマスター 堀江愛子先生ご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに、世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。2日目の受講を終えた全員に、認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。



第11回 (2019年度) 「相模原市内高等学校校長と和泉短期大学との教育研究会」

2019年9月18日(水)第11回(2019年度)「相模原市内高等学校校長と和泉短期大学との教育研究会」を1号館3階ラーニングセンター willにて行いました。相模原市内の高校より14校14名の校長先生が御出席くださいました。

当日の話題提供「子ども・親そして家族の育ち ― 子育てを取り巻く家族機能 ―」の講話をもとに、意見交換会を行い、多くの貴重なご意見をいただき高大連携を深めました。



2019年度 第1回 神奈川県3短期大学体育大会

2019年10月6日(日)、本学4号館アリーナで「2019年度 第1回 神奈川県3短期大学体育大会」を開催しました。

この大会は、2020年東京オリンピック開催のため、毎年夏休みに行われていた「全国私立短期大学体育大会」が2019・2020年度と休止になったことから、神奈川県内の3短期大学(本学、湘北短期大学、横浜女子短期大学)の間で体育大会(バスケットボール)を企画・実施しました。

学生たちは日頃の練習の成果を十分に発揮し、男女とも白熱した試合が繰り広げられました。試合終了後は、出場選手、教職員スタッフ全員で記念撮影を行い、学生食堂にて楽しい交流の時間を過ごしました。

【大会の結果】

女子の部：優勝 湘北短期大学 第2位 和泉短期大学 第3位 横浜女子短期大学
男子の部：優勝 和泉短期大学 第2位 湘北短期大学



第22回 2019年度「学校法人和泉短期大学 サンクスギビングフェア」

2019年10月18日(金)に、「サンクスギビングフェア」を開催しました。

このイベントは年4回開催しています。今回で通算22回目の開催で、毎回、学生から好評を頂いています。

イベント内容

100円ランチは2種類でハロウィンおばけハンバーグ、恋する手作りカレーライスです。

キャンパスコンビニ全品20% OFF くじ引きがあります。／自販機カップ飲料無料(200杯限定)

今回のフェアの目玉は、おばけハンバーグの顔をケチャップを使って自分で描く「ハロウィンおばけハンバーグ」。学生たちは誰のお化けが可愛いかを楽しんでいました。100円ランチは盛況のうちに完売、無料のカップ飲料は休み時間に学生の行列が出来ました。全品20%引きのキャンパスコンビニは学生の姿が絶えませんでした。

引き続き、学生向けの楽しいイベントを企画して参ります。



卒業生の活躍 (第21回)

こども法人キッズカラー代表

2006年卒業 雨宮 みなみさん

私は今、「HoChue (ほいくる)」という、さまざまな遊びのアイデアや保育に関する情報を掲載しているWebサイトを運営しています。

保育士として6年間子どもに携わった後に立ち上げ、もうすぐで10年になります。

そもそもクラスだよりを作る時しかパソコンを使っていたことがなかった私が、なぜWebサイトを立ち上げたのか：背景には、保育士をしていた当時、日々感じる責任感や成長願望と裏腹に、自分の知識や経験を広げる環境が乏しかったという



運営を通して、さまざまな園や保育、人との出会いがあります。いつも感じるのは「保育に正解はない」ということ。だからこそ、難しく奥が深く、そしてとてもおもしろいなあと、学生時代と変わらず勉強ばかりの毎日です。

今でも和泉の当時の担任の先生に相談させてもらったり、保育士を共に志した仲間とのやりとりが励みになっていたり。保育士時代はもちろん、和泉での学生時代も含めて、これまでのいろんな出会いや経験が今に繋がっています。

和泉短期大学卒業生・父母会長からのメッセージ

和泉短期大学父母会長 平岩 夏美

日頃より父母会活動にご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。

1986年(昭和61年)創立30周年記念事業の一環として『和泉短期大学父母会』が設立されました。記念すべきその年に私は、幼稚園教諭の夢を抱き、新潟県から上京して和泉短期大学に入学致しました。当時は県外から入学した学生が多く学生寮で生活を共にしながら充実した日々を送りました。授業では特にリトミックやオペレッタでグループの仲間と楽しく表現活動をしたことが懐かしく思い出されます。卒業後は、幼稚園、保育所でたくさんの子どもたちと触れ合い、かけがえのない幸せな時間を過ごしました。

我が娘が進路を考える際、「幼児保育の道にすすみたい」と言った時はとても嬉しく思いました。いくつかの大学と一緒に見学しましたが和泉のオープンキャンパスには何度か参加し、娘は愛と奉仕の精神である和泉の魅力に惹き込まれていったようです。親の勧めの家族推薦ではなく、本人が和泉で学びたいと希望して受験をし、入学させていただきました。私は和泉の愛に満ちあふれた温かさが大好きです。誇りをもって



学生を育ててくださる和泉で娘が学びを深めていること、また、父母会設立の年に入学した私が現在、父母会長に就任し、神様に導かれていくことに感謝の気持ちでいっぱいです。

令和のはじまりの年、和泉を取り巻く人々が良い循環の世の中で貢献して、歩み行くものとなりますようにお祈りしています。

人事

任用(2019年10月1日付)

沖 安子 学生支援ユニット(非常勤)

表彰

一般社団法人キリスト教保育連盟(永年勤続表彰)

櫻井 奈津子 教授
鈴木 敏彦 教授

計報



学校法人和泉短期大学元理事、元評議員の眞鍋恵三先生が2019年9月17日に召天されました(享年98歳)。ご遺族の上に、神様のお慰めと平安をお祈りいたします。

歴任された役職

学校法人青山学院総局長
学校法人青山学院理事・評議員
財団法人共愛館理事長
社会福祉法人愛隣団理事長
社会福祉法人基督教児童福祉会理事

学校法人和泉短期大学経歴

理事 1980年6月1日～2008年6月14日
28年間(7期) 任期満了

財務担当理事

1996年～2004年
8年間(2期)

学長候補者選考委員会委員長

1995年10月～1995年12月
2001年3月～2001年6月

評議員 1978年6月1日～2012年6月14日
約34年間(17期)

評議員会議長

1996年6月～2008年6月
12年間

眞鍋恵三先生は、本法人の設立時に理事長であった眞鍋頼一先生の二男で父子二代に渡り50年間本法人を支えていただきました。頼一先生がお亡くなりになられた後に、ご遺族からの寄付金を基金とした眞鍋記念奨学金を創設し、毎年度、本学の成績優秀者への奨学金として引き継がれています。

和泉短期大学設立当初から深い関わりを持つ眞鍋恵三先生は、本学を愛し、教職員のことをいつも気に掛けていただきました。理事、評議員を退任されてからも、本学を見守って頂いた優しい先生でした。

眞鍋先生のご意思を引き継いでいくことを本法人の使命と致します。

事務局長 土橋 正文

故 大下イク子氏 大下聖治教授 御母堂

(2019年8月3日)

故 池田 清吾氏 池田悦子庶務ユニット庶務担当 御義父 (2019年8月15日)

故 高橋 澄子氏 川本未来キャリアデザインセンター保育力支援者 御祖母 (2019年9月9日)

主による平安をお祈りいたします。

2019年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2019年6月～2020年3月(第2期)
募金金額 1 □ 5,000円
払込方法 郵便振替口座
 口座番号 00280-6-105705
 口座名 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2019年8月1日～2019年11月30日>

足立 元広/足立 明子/大塚 真光子/片山 知子/岸川 洋治/小池 教興/佐野 幸枝/曾根 真理子/田代 敦美/
 田中 益代/戸田 美穂/中畑 宏幸/松山 由佳子/溝口 敏江/匿名希望(4件) 以上18件 180,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

2019年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2018年5月に学校法人和泉短期大学は創立63年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生19,234名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2019年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業 震災・災害対策
 (3号館和泉クラーク・ホール照明器具の改修工事)
 和泉クラーク・ホール音響設備
 その他教育環境改善費他

寄付者一覧(敬称略) <2019年8月1日～2019年11月30日>

足立 元広/足立 明子/片山 知子/岸川 洋治/小池 教興/佐野 幸枝/杉山 佳子/曾根 真理子/田口 喜久江/
 田代 敦美/田中 益代/中畑 宏幸/西田 伸江/深町 正信/松岡 俊彦/松山 由佳子/丸山 栄一/溝口 敏江/
 村内 道子/匿名希望(7件) 以上26件 241,000円

募金目標金額 10,000,000円
募金募集期間 2019年6月1日～2020年3月31日
募金金額 1 個人 1 □ 5,000円
 2 法人 1 □ 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

オレンジリボン・キャンペーンを相模大野駅、橋本駅にて実施しました

2019年11月8日(金)17:30～18:30 JR横浜線 橋本駅 北口広場、11月13日(水)17:30～18:30 小田急線 相模大野駅 北口広場にて、オレンジリボン・キャンペーンを実施しました。

本学学生と教職員が、相模原市こども・若者未来局、相模原市民生児童委員協議会、相模原市児童虐待・いじめ防止連絡会、市内児童福祉施設の方々と協力して「児童虐待防止にご協力お願いします!」と呼びかけながら、学生が手作りしたオレンジリボン2,000枚を、駅を行きかう人々へ手渡しました。

本学の運動が少しでも児童虐待防止につながればと願います。本学は、「オレンジリボン運動」(児童虐待防止推進活動運動)に賛同しており、2009年より相模原市と協力し、児童虐待防止にむけた活動を全学あげて支援・推進しています。



事前のオレンジリボン作り



橋本駅・相模大野駅での街頭配布